

# 「子どもの貧困」考える

さん太ホールでシンポ



貧困に陥りやすいひとり親家庭の支援について話し合ったシンポジウム

子どもの貧困について考えるシンポジウム（岡山東ロータリークラブ主催）が17日、岡山市北区柳町の山陽新聞社さん太ホールであり、有識者や企業、民間支援団体などの代表者5人が、貧困に陥りやすいひとり親家庭の支援の在り方について話し合った。

子どもの貧困に詳しい川崎医療福祉大（倉敷市松島）の直島克樹講師は「日本のひとり親世帯の貧困率は50・8%と世界の中でも高い。その家庭の子どもは習い事に通えないだけでなく、子ども会や地域のイベントにも行けず、周囲から孤立してしまっている」と現状を説明した。

玉野市明神町に製造工場があり、シングルマザーの就労環境整備に力を入れる縫製メーカー、ドゥ・ワン・ソーイング（大阪）の福田維居総務人事課長は、その日の製造数をクリアした時点で

帰宅できる制度の導入や通信制大学に通うための学費を援助していることを紹介。「生産性の向上や従業員のカリキュラアップにつながっている」と話した。

Y M C A せとうち

（岡山市北区中山下の太田直宏代表理事は「貧困世帯の人は声を上げづらい」とした上で、助けを求める声に敏感に反応できる地域のつながりの重要性を訴えた。

（小川耕平）